

「寄稿規定・執筆細則」「査読規定」の改訂についてのお知らせ

会員のみなさま、2014年2月16日の理事会で『文化人類学』の「寄稿規定・執筆細則」「査読規定」の改訂に関する編集委員会提案が承認されました。この改訂は、今期編集委員会が、「特集改革」「査読改革」とならんで学会誌改革の一つとして取り組んできた活動の成果でもあります。ポイントは二つです。一つは、「寄稿規定」に新たに「寄稿条件」を設定したこと、もう一つは、「寄稿規定」の「投稿区分」に「研究展望」を新設したことです。以下、改訂の趣旨（Ⅰ）を説明し、改訂の具体的内容（Ⅱ）をおよび新旧対照表（Ⅲ）を提示します。

『文化人類学』編集主任 松田素二

【Ⅰ】改訂の趣旨

1 寄稿条件の新設について

『文化人類学』誌には、前身の『民族学研究』の時代から、投稿する論文等についての条件の規定はありませんでした。投稿されるものは「未公刊」のものに限るとか、二重投稿は受け付けられない、ということは、学会誌に投稿を考える会員にとっては改めて指摘する必要のないほど「当たり前」の「常識」だと考えられてきたからです。しかしこうした「暗黙の了解」や「常識」にたよって学会誌を編集することは望ましいことではありません。人文・社会系の学会誌の多くは、こうした規定を明文化しており、それに違反する疑いのある投稿論文等については、規則に従って対処が可能になっています。

そこで本誌においても、「寄稿規定」の第二条に寄稿条件を新たに設定して、投稿する論文等は未公刊なものに限り、二重投稿は認めないことを明記することにしました。

2 投稿区分への「研究展望」の追加について

これまで『文化人類学』誌の投稿区分は、それぞれに性格規定がされている「論文」「研究ノート」「資料と通信」「書評」という4つに限定されてきました。しかし近年の文化人類学的営為の拡張や変貌のなかで、それらを広

く深く捉えて批判的あるいは建設的に検討する作業の重要性は非常に大きくなっています。研究の動向を定位し、研究の展望を検討する論考として、この「研究展望」は位置づけられます。ただし、この「研究展望」は英語の研究史の紹介をすることが目的ではありません。日本における文化人類学の動向や新知見の確認、理論的進捗状況をそれとしっかりと連動させて明示するのが目的です。私たち文化人類学会員の仕事は、たしかに欧米人類学との潮流と密接に関わる形で進展していますが、それを背景としてふまえつつ、何が明らかになったのか、確認し共有し議論することは、これからの文化人類学の発展にとって重要な意義を有するものと思われまます。

【Ⅱ】『文化人類学』「寄稿規定・執筆細則」、「査読規定」の改定内容

〈寄稿規定〉

2. 寄稿条件

本誌に発表する論文、研究ノート、研究展望などは、いずれも未公刊のものに限ります。また他で審査中あるいは掲載予定となっているものは二重投稿とみなし、本誌での発表を認めません。

(2. 寄稿条件を挿入するため以下番号の繰り下げ修正)。

3. 審査

4. 投稿区分

本誌には、「論文」「研究ノート」「研究展望」「資料と通信」「書評」という投稿区分があります。「研究ノート」は……。『研究展望』は、文化人類学との関係において、特定テーマに関わる重要な文献(論文・書籍など)を総説的・批判的にまとめたものを対象としています。」「資料と通信」は、……。

5. 枚数

枚数には(400字詰原稿用紙1枚形成)には... (中略)... もありますので注意してください。

論文 80枚以内+日本語要旨(400~800字)、欧文要旨(800~1,000語)

研究ノート 50枚以内+欧文要旨(400~500語)

研究展望 40枚以内(ただし参照文献は別途換算)+欧文要旨(400~500語)

資料と通信 20枚以内

書評 5~15枚

〈執筆細則〉

2. 構成

論文 題名、日本語要旨、キーワード、目次、本文、注、参照文献、欧文要旨

研究ノート 題名、キーワード、目次、本文、注、参照文献、欧文要旨

研究展望 題名、キーワード、目次、本文、注、参照文献、欧文要旨

資料と通信 題名、本文、注、参照文献

書評 編・著者名、書名、...

4. 欧文要旨(論文、研究ノートおよび研究展望)

論文には欧文要旨(英語、独語、仏語のいずれかで、論文は800語~1,000語、研究ノートおよび研究展望は400~500語)が必要です。著者校閲を原則としますが、念のため欧文要旨は校閲しますので、1行あけて印字し、対応する和訳を必ず付けてください。

5. 英文タイトル

論文、研究ノート、研究展望、資料と通信には英文タイトルをつけてください。

〈査読規程〉

第1条 日本文化人類学会は、学会誌『文化人類学』に掲載される「論文」「研究ノート」「研究展望」「資料と通信」等が、.....

第2条 編集委員会は、投稿された「論文」「研究ノート」「**研究展望**」「資料と通信」等(以下論文等という)

第4条[審査事項]

9)原稿区分(「論文」、「研究ノート」、「**研究展望**」、「資料と通信」等)の適切さ

[判定]のローマ数字の下位区分の表記を括弧付き数字に改定

I 掲載可(再審査不要)

1)このままで掲載可

2)指摘箇所...

II 訂正後再審査

1) 小程度の...

2) 中程度の... (以下、同様に修正)

上記の改訂について、改定日を2014年2月16日(理事会承認日)とする。また施行日は2014年3月16日とする。それにともない「寄稿規定・執筆細則」の最後尾に「(2014年3月16日)」を挿入し、「査読規定」の「附則」を以下のように改定する。

附則

この規定は 2014年3月16日より施行する。

【Ⅲ】改訂に関する新旧対照表

対照表エクセルファイルを添付する